

# Nougyou Nounon いしのまきNN通信



トヤケ森から望む石巻管内の風景

「いしのまきNN通信」は、石巻地域の農業農村整備事業に関連する活動等を広くお知らせすることを目的に、年3回程度発行しています。掲載希望の情報等がありましたら農村振興班までご一報ください。今後ともよろしく申し上げます。

## 平成30年度 復旧農地作付状況



第40号の目次:

H30 復旧農地作付状況	1
宮戸9分区 いちじく定植	2
石巻市北限オリーブ 1,500本定植記念植樹	
H30第1回農地集積戦略会議	3
田んぼの学校 2018	
派遣職員紹介	4

東日本大震災で甚大な津波被害を受けた石巻市大川地区、牡鹿地区、東松島市奥松島地区において、平成30年春、復旧工事が完了した一部ほ場で営農再開しました。これら3地区の営農再開状況は下表のとおりです。

地区名	震災後初の 営農再開	復旧予定 面積	H30年度 営農再開面積	営農再開 面積の割合
大川地区	H28年度	413.0ha	12.0ha	約68%
牡鹿地区	H29年度	26.2ha	6.8ha	約43%
奥松島地区	H28年度	145.4ha	28.0ha	約79%

震災後、大川地区・奥松島地区では、新たな農業法人が設立され農地の集積が進んでいます。また、牡鹿地区では、ほ場の大区画化と併せて土地利用の整序化を図っており、今後の地域農業の発展に向けた取組が展開されています。

県は、平成32年度までの農地復旧完了を目標に事業を推進していきます。



▲石巻市大川地区(平成30年7月)

▲東松島市奥松島地区洲崎地域  
(平成30年7月)

▲石巻市牡鹿地区(平成30年6月)

## 奥松島地域営農再開実証プロジェクト 宮戸9分区にいちじくを定植しました

東松島市奥松島地区では、東日本大震災からの目に見える復旧・復興を目標に掲げ「奥松島地域営農再開実証プロジェクト」を実施しています。その一環として、農地整備が完了した宮戸9分区で、平成30年4月27日にイチジクの定植が行われました。作業には、担い手農家とJA、市、県の職員が40名ほど参加し、約0.8haの農地に230本の苗を植えました。

担い手である「奥松島果樹生産組合いちじくの里」の尾形善久代表は、あいさつの中で、「苗の定植作業はこれで最後となるが、引き続き生育管理や鳥獣害対策に尽力して、多くの収穫を目指したい。」と述べました。

当プロジェクトでは、農地を転作果樹園として活用する試みを推進しており、平成28年春には6分区（約1ha）にイチジクと桃を、平成29年春には8分区（約0.7ha）にイチジクと柿を定植しました。今回の定植により、3つの分区を合計した転作果樹園面積は約2.5ha、栽培本数は560本となりました。平成29年度に初の収穫を迎え、イチジクを使用した新商品の試作が行われるなど、6次産業化の取組も期待されています。今後は、本格的な収穫・出荷に向け活動を展開していくこととなります。

奥松島地域営農再開実証プロジェクトは、ほ場整備事業完了予定の平成32年度まで継続する予定です。



▲定植作業の様子



▲定植後の宮戸9分区

## 石巻市北限オリーブ1,500本定植記念植樹が行われました

平成30年6月2日、石巻市北限オリーブ研究会主催による「石巻市北限オリーブ1,500本定植記念植樹」が行われました。当日は、地元農家・JA・市・県などの研究会メンバーや一般参加者約140名が、石巻市北上町原地区に集い、オリーブ苗木約200本を定植しました。

開会式のあいさつの中で、亀山市長は「オリーブ定植本数が商業ベースである1,500本に達する。この取組が6次産業化や観光産業へ波及し、オリーブが石巻の一大産業となることを期待する」と述べました。

当日は晴天の下、小学生から地元のベテラン農家まで幅広い年齢層の参加者が、スコップを手に協力しながら定植作業を行いました。

石巻市は、平成26年度から実証栽培に取り組んでおり、平成29年度までに、北上町月浜地区、雄勝地区、河北地区、牡鹿地区の4地区で苗木を定植しました。今年度はさらに定植エリアを広げ、4月には、北上町月浜地区でほ場を拡大し60本のオリーブを追加定植したほか、6月には、北上町の原地区で900本、立神地区で190本の苗木を植えました。

石巻市北限オリーブ研究会は、今年度、オリーブの生育・収穫管理を継続して行うとともに、視察研修や収穫・加工体験の実施も計画しています。



▲亀山市長によるあいさつ



▲定植作業の様子



## 平成30年度 第1回 農地集積戦略会議

県は、ほ場整備事業に取り組む13地区を対象に、平成30年7月11日から13日までの3日間、第1回農地集積戦略会議を開催しました。

この戦略会議は、県や市、土地改良区、JA、農業振興公社、土地連などの関係機関が一堂に会し、農地集積目標の達成に向けた課題検討を行う場となっています。

今回は、平成29年度農地集積実績報告と昨年度末に整理した平成30年度の課題について、関係機関と情報共有を図りました。農地整備事業完了間近の地区においては、担い手要件の再確認や農地の計画的集積に向けた手法について話し合ったほか、目標達成年度に向けてのスケジュールを検討しました。

戦略会議は、今年度各地区ごとに3回の開催を予定しており、次回は10月下旬に予定しています。



▲ 広瀨沼地区  
(平成30年7月11日)



▲ 飯野川地区  
(平成30年7月12日)



▲ 大曲地区  
(平成30年7月13日)

## 田んぼの学校 2018

石巻市河南地区では、多面的機能支払交付金事業に取り組む活動組織が地元の小学校と連携した広報・啓発活動を実施しています。平成30年度は、5月25日に広瀨小学校5年生が田植え体験を行いました。また、6月21日には前谷地小学校5年生が、25日には鹿又小学校が校外学習を行いました。各地区の活動組織「広瀨ふるさと保全会」「鹿又ふるさと保全会」「前谷地ふるさと保全会」がそれぞれ実施に協力し、河南矢本土地改良区、市、県の職員も参加しました。

広瀨小学校5年生は、学校の近くの田んぼで、手作業による昔ながらの田植えを体験しました。鹿又小学校5年生は、地域の田んぼの用排水を担う用・排水機場を見学し、農業水利についての理解を深めました。また、前谷地小学校5年生は、用排水機場の見学と田んぼの水質調査・生きもの調査に取り組みました。どの学校の児童たちも、友達と協力して作業をしたり、初めて見る生き物を捕まえたりと、校外学習の時間を楽しく過ごしていた様子でした。また、周囲の大人に積極的に質問をするなどして、農業について多くのことを学んだようです。



▲ 広瀨小学校 田植え体験  
(平成30年5月25日)



▲ 前谷地小学校 生きもの調査  
(平成30年6月21日)



▲ 鹿又小学校 農業水利施設見学会  
(平成30年6月25日)

## 災害復旧支援の自治法派遣職員のみなさん

平成23年9月1日から、災害復旧支援のため県外から自治法派遣職員の方々に応援に来ていただいております。現在、当部では愛知県2名、香川県1名、徳島県1名、岡山県2名、島根県1名、神奈川県2名の方が応援に来ています。また、これまでに三重県、佐賀県、兵庫県の職員の方も応援に来ていただきました。当部では、自治法派遣職員のみなさんと協力し、農地・農業用施設の災害復旧業務に取り組んでまいります。

愛知県派遣(7月)



▲ 桑山 幸久さん

▲ 加藤 智大さん

神奈川県派遣



▲ 千葉 茂さん

伊藤 正幸さん▶

香川県派遣



◀ 神高 良明さん

岡山県派遣



▲ 楠本 和久さん

▲ 武村 光一郎さん

徳島県派遣



▲ 吉田 直輝さん

島根県派遣



◀ 曾田 潔志さん

### 宮城県東部地方振興事務所 農業農村整備部

(編集：農村振興班)

一日も早い災害復旧と  
地域復興をめざして

〒986-0861 石巻市蛇田字新沼田12番地4街区1画

☎ 0225(95)1411 (内) 2631 Fax 0225(96)4880

E-mail et-ss-nos@pref.miyagi.lg.jp

URL <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-ns/>